

2015.8.1

映画「ベトナムの風に吹かれて」

新潟市や南魚沼市などで撮影された映画「ベトナムの風に吹かれて」の完成試写会が31日、新潟市中央区の新潟ユニゾンプラザで開かれた。ベトナムを舞台に、認知症の母を介護する娘を

新潟で
試写会

演じた主演の松坂慶子さんが舞台あいさつし、「2人一緒に迎えるラストシーンがとても好き。エネルギーいっぱいの作品を楽しくご覧いただきたい」と呼び掛けた。

新潟新報

主演・松坂さんらあいさつ



完成試写会で舞台あいさつする（左から）大森一樹監督、主演の松坂慶子さん、草村礼子さん=31日、新潟市中央区

「ベトナムの」は、魚沼市出身でベトナム・ハノイ在住の小松みゆきさんの著書「越後のBaちゃんベトナム認知症になつた母（草村礼子）へ行く」を映画化した。松坂さん演じる、みさおはハノイで働く日本語教師で、

母娘を結ぶ強い絆

映画では、世話好きなハノイの人たちに溶け込んで暮らす母娘の絆や、認知症介護の悲喜こもごもが描かれ、県内ではことし1月に撮影が行われた。

試写会には約400人が参加。歓声に迎えられた松坂さんは、ハノイで面会した小松さん親子の印象を「バイタリティーがあって、それにならつて20代のつもりで撮影に臨んだ。アットホームな中で撮影できたのがよかつた」と語った。草村さんは「認知症の映画というと、重い、暗いと思われるが、とってもすてきな映画になつた」、大森一樹監督も「口ケで大変お世話をなつた新潟で、大勢の方に見ていただきたい」と話した。

新潟市中央区有明台の主人公がお母さんを連れて行くと覚悟を決めたのが印象的。自分だったらとてもできな

い」と話していた。

県内公開は9月26日。10月